

◎主な研究成果

◆種雄牛開発の効率化

【目的】バイオテクノロジーを用い、一卵性双子を生産、片方の枝肉成績よりもう片方の種雄候補牛の能力を評価する。
 【結果】双子の片方の枝肉は、肉質がA5ランクと良好な成績が得られた。
 【今後】もう片方を種雄牛候補として後代牛を生産・肥育し、双子検定の精度を確認。



種雄候補牛として待機中の「優青」



「優青」の枝肉 (BMS No.9、枝重523.5kg)

◆黒毛和種の経済的で簡易な肥育管理

【目的】飼料用米給与・期間短縮肥育で肉質の良い飼育方法を開発する。
 【結果】肉質が良好となるビタミンA剤定期給与プログラムを開発した。
 【今後】ICTを活用したストレスフリーな肥育技術を検討。



飼料用米を食べる試験牛



ビタミンA剤給与プログラムで生産された高品質牛肉

◆より美味しさとこだわりをもった地鶏生産

【目的】遺伝子解析技術を活用した美味しい青森シャモロックの選抜。
 【結果】アラキドン酸比率の高い美味しい青森シャモロックを選抜した。
 【今後】始原生殖細胞を用いた遺伝資源保存方法の検討。



青森シャモロックひな

◆自給飼料の増産対策

【目的】乳牛に不足するタンパク質を補うために、新たな高タンパク質飼料作物の栽培技術を確立する。
 【結果】飼料用ダイズは大豆粕を購入するよりも安価に生産できる。
 【今後】牛の乾物摂取量を増やすための牧草の肥培管理技術を確立するとともに、嗜好性の高い品種を選定する。



高タンパク質牧草「ガレガ」の生育状況

◆乳牛の長命連産技術

【目的】初産牛の死亡・廃用率が高くなる要因とその影響を明らかにする。
 【結果】初産時、無理なけん引介助を行うと産後の肥立ちが悪くなり餌が十分に食べられず、その後の受胎率も低下する。
 【今後】経産牛の廃用率を低減するため、潜在的な疾病対策及び暑熱ストレス低減技術を開発する。



乳牛の飼養環境調査

◆全国評価の向上のための優良種雄牛の作出

【目的】優良な種雄牛の作出と利用を通じて、県産和牛の市場評価を高める。
 【結果】「平安平」産子が高評価を得ているほか、「春待白清」及び「広清」の凍結精液を供給している。
 【今後】全国レベルの品評会での上位入賞を通じて、県産和牛の品質の高さをPRする。



県基幹種雄牛「広清」



「広清」産子の枝肉

◎その他の試験・研究・調査

- ◆黒毛和種におけるゲノム解析
- ◆短期連続採卵技術による優良雌牛増産技術の確立

- ◆日本短角種の種雄牛の生産
- ◆牧草・飼料作物の優良品種の選定